

Okahata

NEWS LETTER

Business updates, new ideas and more
from Okahata

2020
09



時差観光のススメ。ちょっと時差つけると、こんなに最高！
(時間の平準化、推進中！)

社長のつぶやき (叫び?)

いつもご笑覧頂き、有難うございます。今月も、弊社米本のコロナ禍渡航記、展示会(ケミマテ)、ベトナムのコロナと、盛り沢山。その前に少しだけ、私のつぶやきにもお付き合いください。日本中大混雑だった四連休明け(9/23)、ザワザワした心持ちの岡畑典裕です。観光業を救うと同時に、三密を作らない知恵と工夫はどこに?という素朴な疑問。国民が9時5時に合わせて一斉に満員電車で飛び乗り、休日に混雑した観光地に足を運ぶという“プレコロナ常識”は、“誰得な悪常識”かもと、皆が頭で分かったとしても、身に付いた習慣を変えるのは一筋縄では行きません。プレコロナへの引力の強さを痛感した四連休でした。

だからこそ、“三密を避ける”の次の文脈・旗印が必要で、それは“休みの平準化”じゃないかと勝手に思っています。“そもそも三密を生まない”社会作りへ旗印として、“休みの平準化”。国が決めた日に働き休むのではなく、働き方・休み方は僕らで決めたいですよね。自ら選んで、働き、コミュニケーションし、遊ぶという、人間の本質に近いこのスタンスこそが、仕事の質や生産性を上げていくとも信じています。

弊社は、5時から飲みは推奨ですし、平日朝一スルーゴルフ推奨、金曜日の会社行事廃止等、今月も小さく前に進み続けます。

ちなみに、岡畑典裕家は超のつく朝型。連休中に観光地(写真は曾爾高原)に行っても朝一に動けば、どこもガラガラ。遊びの平準化、万歳!

ケミカルマテリアルJapan 2020-ONLINE-に出展!



Welcome動画の一コマ。
アジア香粧品からスーパーエンブラPEKKまで。
アクセスお願いします！

さて、化学業界もオンライン展示会の時代へ。
化学工業日報社主催の「ケミカルマテリアルJapan
2020-ONLINE-」にも当然出展します！いつでも、
どこでも、思い立ったら数秒で会場に飛べる、最先端
原料素材の展示会。岡畑興産からは、**アジア発の天然
&環境系香粧品原料を中心に、生分解型マイクロカ
プセルや、スーパーエンブラPEKK等**をご紹介します。
ONL同様、どんどんコンテンツ発信して
おりますので、ぜひ足(指)をお運びください！(あ、
岡畑さーんご無沙汰的な、会場での偶発的な出会い
がないのは残念ですが、駅からひたすら歩かなくて
済むのは助かります・笑)

それぞれの開国

企業間の対面コミュニケーションの“開国“(いやあ、対面で話すと話が弾みます！)機会増と同様に、国際的な往来再開に向けた段階的措置が

①レジデンス・トラック

②ビジネス・トラック

という形で、始まっています。

“ビジネス上必要な人材の出入国について例外的な枠“という位置づけで、私のような“添え物“の出入国はまだまだ先なのですが、まずは基礎知識として、

①**レジデンス・トラック**は、駐在員や長期滞在者が対象で、14日間の自主待機期間付きでの出入国

②**ビジネス・トラック**は、ビジネス出張者が対象で、14日間の自主待機は必要だが、活動計画を提出すれば、待機期間でもビジネス活動が許される。

さて、弊社役員米本はただいま、**①レジデンス・トラック**で入国&自主隔離中。早速入国レポートです！

コロナ禍日本渡航記

(米本 弘)

自称“永遠の旅人”だった台湾在住の私もいよいよ始動。
ゴーグルとレインコートをもとって(ませんが)、
いざ日本へ(今も“自由な“自主隔離中)。

プレコロナは自称“永遠の旅人”だった台湾在住の私も、
いよいよ始動。レジデンス・トラックでの一時日本帰国
へ。台湾のエバー航空が毎日一便運航する桃園国際空
港と関西国際空港を結ぶ便での渡航となりました。

桃園空港に到着すると、世界各国を結ぶ便でにぎやか
だった出発・到着便パネルの9割以上は欠航表示、
チェックインカウンターの人まばら、カウンター前
には進入禁止規制が成され、パスポートを渡すにも小
生が手を伸ばしてやっと届くような不便なソーシャル
ディスタンス。荷物検査場の床にも足形ステッカーが
貼られ、私を含めて3人の渡航者が、1人1人コンベヤに
すすんで荷物をチェックするという方式に変わってい
ました。驚いたのは、DFSがオープンしていること。空
港会社との契約か雇用の維持か、まさに開店休業。

台湾の友人、弊社スタッフは皆口々に“ゴーグルとレイ
ンコートを忘れずに、気を付けていってきてください”
と送り出してくれたのですが、内心ほんまかいな。とこ
ろが、いましました、レインコートにゴーグル姿の
渡航者が。。聞くとところによると台湾人の渡航者の間
ではこれは標準装備、しないのは日本人くらいとのこ
と。ただし、基本要件項目として求められるものでもな
いらしく、自衛の策としてのことで如何に台湾人の感
染防止意識が高いかがわかります。ちなみに私の娘の

同級生が6月に留学先のニューヨークから台湾に帰国した際は、ゴーグル、医療従事者用プラスチック製の衣服、紙おむつ着用でニューヨークから食事もトイレ使用もしなかったくらい。たしかに飛行機という狭い空間での感染は怖い気がしますね。

渡航までの待ち時間、ラウンジの利用客も3人のみ。限定区域での着席が求められ、ビュッフェは廃止され、メニューによる注文形式に変わっていました。

搭乗時間が近づきゲートに移動。ゲート付近のショップやレストラン、カフェはすべて閉店。早速搭乗し、機内に入ると、渡航者は30人位。使用機材はボーイングの787の最新機でしたのでざっくり1/10しか席が埋まっていない状態です。とはいえ、渡航者が毎日30名もいるのか、とも思う不思議な状況。

関空に到着しても、自由に飛行機を降りることはできません。係員を待ち、誘導にしたがってソーシャルディスタンスが確保されている待合場所まで移動です。そこから、小グループに分けられ、順番にPCR検査場に移動させられます。8月より関空では唾液によるPCR検査になっていますので、唾液を採取し、検体を適量とり係員に手渡した時点で番号が割り当てられます。2~3時間で結果が出るとの説明を受け、個別検査ブースへ。採取する唾液量は相当な量が必要で、結構時間がかかりました。笑ったのは、ブースの壁に梅干しとレモンの写真が貼ってあったこと。写真の解像度も不鮮明で何の足しにもならず、唾液を取るのに一苦勞。耳の下をマッサージしながらなんとか採取し提出し、検査結果を待ちます。

待ちの時間を使って、日本での滞在先と連絡先の登録を行ないます。レジデンス・トラック利用の日本人は、家族のもとで自主隔離が許されるので、ほぼ家の住所

になろうかと思います。私の場合、実家での自主隔離も考えましたが、周りの目もありますので、大阪に部屋を借りて、その住所の登録を。

この日は約1時間で番号が呼ばれ、陰性結果を告げられ、ほっと一安心し、入国審査へ。渡航者も少ないので、入国審査以降は待つことなくスムーズに進みましたが、空港関係者の装備と手荷物検査など人と接触する場面では、マスクは当然ながら、手袋、プラスチックシールドの設置、ソーシャルディスタンスが徹底され、空港内での入国対応の厳格さは台湾と大差なし。預け荷物のピックアップ、荷物審査と進み、晴れて到着ロビーまでたどり着くと、一気に、“自由の身“に！

“自由の身“と表現したのは、到着ロビーからの私の行動が誰からも監視されることがないのに驚いたからです。このまま、電車に乗って移動もできますし、もう普通の市中の人扱い。タクシーを含む、公共交通機関には乗っていけないことになっているものの、個人の良識にすべて委ねられているということなのです。当然、私は渡航前に予約していた海外渡航者を運んでくれるハイヤーに乗り込み、台湾の厳しさと比べて“奇妙な自由さ“を感じながら、大阪市内の自主隔離場所／二週間のアジトへと移動しました。

コロナ禍での台湾への入国管理はというと、居民、国民以外は渡航前3日以内のPCR検査陰性の証明を持参しなければいけません。私の場合は居民ですのでこれは省略できますが、空港では、携帯電話に専用アプリをインストールさせられ、GPSでの居場所トレースが始まります。入国後も、政府認定の乗り物に乗るまでを、警察が見届ける徹底ぶり。

自主隔離場所は自宅でもかまいませんが、家族とは別の、シャワー・トイレ付き個室付きが条件となり、政府が指定するホテルになるのが一般的。そして、自宅でも、

ホテルの一室でも、そのドアから一步も外出することは許されません。

GPS監視は14日間続き、その間一步でも外に出れば、逮捕です。罰金約400万円(日本円)が課せられ、テレビの全国ネットで実名報道がなされ社会的制裁を受けます。先述の私の娘の友人が隔離中に携帯電話の電池が切れていることに気付かなかったとき、1~2時間で警察が家まで飛んで来て、GPSをオフにして外出しただろうと厳しい詰問を受け、電池切れを証明するのに一苦勞だったそうです。つまり隔離中は“自由の身”を感じることは一瞬たりともない、と言えます。

翻って、日本での自主隔離生活ですが、外出しようと思えばし放題(もちろん、していませんが)。厚生労働省からの手引きを見ても、隔離中は極力外出を控え、万一外出するときにはマスク着用云々、、、。“極力”、“万一”、という表現は日本的ですし、主観的な判断でどうにでも解釈可。この緩い条件下でも自主的に自分を律し、高いモラルをもって過ごすのが日本国民なのだと思いますが、今後、ビジネス・トラック、外国人受け入れと開国していくなら、対象は、日本人だけではありません。あいまい表現は控え、すべきはすべきとしっかり伝えた方がいいし、この未曾有の感染拡大と全世界での被害が今も続く状況を考えると、多少窮屈でも厳格に管理したほうが良いと個人的には思います。

プライバシーを重視し、法律的に強制力のない日本は恵まれていると思いますが、反面、どうにでも個人解釈され、リスクが広がることにもなるのではないかと、思います。全世界が繋がった非常事態下での、自由の尊重と法的強制、答えはありませんが、とても難しい判断が問われています。

隣国のコロナシリーズ

：ベトナム編（弊社靴受託の主要拠点）

（矢嶋 洋介）

コロナ対策は、政府や国民の主義や価値観によって
十人十色ならぬ、十国十色。
レジデンス・トラック先行実施中の
コロナ抑え込み先進国の実態を、弊社駐在員の矢嶋から。

今では日々感染者数がゼロに落ち着いたベトナム。
7月下旬、感染者数ゼロが連続100日到達直前で
Da Nang で第二波（3日間で計30例！）に襲われ、
数日の間に、Da Nangをロックダウン。9月上旬まで
集会・大規模イベントや市場入場の制限、屋内スポー
ツ禁止はもちろん、Da Nangへの出入り禁止。緩和
フェーズでも、Da NangからHo Chi MinhやHanoi
へ入る場合は、14日間の自主隔離を求めるなど、都
市間の水際対策、実施強度とスピードは凄まじく、ベ
トナム国内出張中に元の街に戻れなくなるリスクも
あるくらい。

交通機関利用者はBluezoneという感染者追跡アプ
リを強制導入。弊社矢嶋はHoChiMinhとHaiPhong
の二拠点を移動しますが、Bluezoneインストールに
加えて、Medical Declarationの提出を求められた
とのこと。

靴工場の稼働率：

コロナ禍減産、各ブランドからの受注量減による、リ
ストラ、自主休暇をすることが多い。取引工場のひ
とつは全体に発注が激減、壁に貼っているブランド毎
の量産計画表もすかすかになり、8棟のある工場を、
2棟に集約。ワーカーも当初3000人から三分の一へ。

食事会・接待などの実施状況:

矢嶋は工場幹部と四人までの会食は実施。国による規制があり、過去のように大宴会などはなく、幹部同士の付き合いくらい。

プレコロナと比べて、実生活はどう変わった?:

生活上ではロックダウン期間にスーパー、クリニック、薬局以外は営業停止になり、皆警戒と注意の毎日、外食が一切出来なくなり、ロックダウン後もいつものまにか自炊が当たり前に。

友人の靴工場等からの情報では、受注減により週休2日が固定へ。ワーカーも残業で稼げず、生活が以前より質素に。街は、解雇になったワーカーがあふれており、生活が苦しくなっている人口も増え、モールも閑古鳥。

マスク着用は?:

一時期Da Nangで感染拡大、皆一様にまた引き締まった自粛傾向、マスク着用が常になっていき、マスク不足も懸念されたが、現在は収束。Hai Phongでもマスク着用する人の姿も50%くらい。

レジデンス・トラックについては?:

既存のHanoi→Narita、Ho Chi Minh→Narita は、旅客運送はベトナム→日本の片道のみで、週一位の頻度。9月19日便は乗客60名で、日本→ベトナム便の再開の情報は聞いていない。

政府は、新たに、6つの都市、Tokyo, Guangzhou, Seoul, Taipei, Phnom Penh, Vientiane(ラオス)との国際便を新たに承認し、タイとの国際線再開も検討中。承認と言っても、いわゆる特別機を飛ばす

ことを許可する、という程度にとどまっており、そのFightに乗れる人はどのように申請され、どのように許可されるかも具体的な情報は無い。

国内観光は規制を緩め始めた程度で、まだまだ海外からの観光客受け入れを手放しで許可する状況には至っていない。

■ 編集後記

「Be Open」キャンペーン

(社内報Gazette2020年9月号第2便より引用)

大坂なおみ選手が全米オープンテニスでBlack Lives Matterと印刷されたTシャツや犠牲者の名前が印刷されたマスクを着用し、黒人銃撃事件への抗議の意思を示していました。香港の民主主義運動、さらには「マスク着用義務」反対デモなど、良きにつけ悪しきにつけ、自ら意見を言い、権利を主張し、行動する。それは、上からのお仕着せではなく、自ら勝ち取った権利の精神が根底に流れているからでしょう。

ドイツのメルケル首相がロックダウンを行う際に発したメッセージ「……私のように、旅行や移動の自由が闘争の末に勝ち取った権利である人々にとっては、こうした制限は、絶対的な必要性においてのみ正当化されなければなりません……」にも表れています。

一方で日本ではそういった運動は極めて低調で、スポーツ選手や芸術家、あるいは高校生などが政治、社会問題に対して意見(特に批判的意見)を述べることにに対して否定的な雰囲気があります。ある政治学者は「日本の社会生活の中には、自発的協力の要素が色濃くある。欠けているのは、少数者の権利の保護とか、それから、みんなが一斉にある方向を向いているときに「ノー」という権利とか。おそろしいほどそれがない」と話しています。

ユニセフが最近発表した「子どもの幸福度について」で日本は「身体的な健康」の分野では1位でしたが、「精神的な幸福度」では38カ国中37位と最低レベルでした。背景に生活に対する満足度の低さや自殺率の高さなどが挙げられていますが、世間体や同調圧力が子供たちを生きにくくさせているのなら、つらいことだと思います。

今年の全米オープンがコロナにより新しい試合方法を、Black Lives Matterにより「Be Open」キャンペーンという新しい取り組みを世界に示してくれました。同キャンペーンの長い感動的なメッセージの最初と最後の部分をご紹介します。

The sport of tennis embraces all players, regardless of age, race, creed, gender, sexual orientation or national origin. It is a game built on respect-respect for one another, and for the game itself.

As part of the USTA's concerted efforts to foster respect for others and shine a light on urgent societal issues such as racial injustice, gender equality and LGBTQ advocacy, the 2020 US Open has launched a new social responsibility and impact campaign called "Be Open" to share the stories of people, communities and causes that exemplify the spirit of "being open." We hope to inspire others to "Be Open" and to join us in being the change that the world needs now more than ever. Because when we're "Open" together, so much more is possible.

(kiki)

岡畑興産株式会社 ニュースレター／毎月発行
2020年9月29日号
発行：岡畑 典裕

岡畑興産株式会社

大阪府大阪市中央区島之内1-5-6
TEL：06-6251-8252 FAX：06-6251-8278

Okahata
OKAHATA&CO.,LTD

OKAHATA NEWS LETTER
2020.9.29 / Issue 005

© 2020 オカハタとアイデアと